

塩化アンモニウム負荷試験について

遠位尿細管アシドーシスの診断で行います。検査中に嘔気を認めることがあります。また、肝疾患の場合には施行できません。

方法

- ①検査当日は絶食で、飲水は可です。
- ②まず尿検査で尿 pH、血液検査で血清 pH と血清重炭酸濃度を測定します。
- ③0.1g/kg の塩化アンモニウムを内服します。
- ④2 時間後と 4 時間後に血液ガス分析で血清 pH の低下と血清重炭酸濃度の低下を確認します。
- ⑤1 時間ごとに 6 時間まで尿検査を行い、尿 pH を測定します。尿 pH が 5.3 以下まで低下すれば終了です。

判定

塩化アンモニウム負荷後に尿 pH が 5.3 以下に低下すれば正常です。血清 pH が 7.32 未満または結石重炭酸濃度が 16mEq/L 未満になったにも関わらず尿 pH が 5.4 以上なら不完全型遠位尿細管アシドーシスと診断されます。